

CROSS

POINT

vol.4

こいこい、春らんまん。

つぼみが芽ぐむ、高知大学。

P2 | 教員インタビュー 福住紀明先生

P4 | ANSWER YOUR QUESTION

P6 | In My Bag 高知大生のカバンをチェック

P8 | 濃いめでお願ひします

-地域協働学部 田村優太さん-

P10 | おすすめの授業

-What is your recommended class?-

P11 | 推し事エッセイ

福住紀明 准教授

理論と実践を結びつける思考

授業では、知識をただ覚えるだけではなくて、自分の経験や現場での実践と結びつけながら考えることを大事にしています。

教育や心理の学びは理論だけで完結するものではないので、実際の子どもへの理解や教育実践について、学生たちが自分なりの問いを持ちながら考えを深めていけるような機会は、意識してつくるようにしています。それこそ、学生同士で対話したり、自分の経験と照らし合わせたりする時間ですね。あとは、より多様な視点を持てるように、個人的に造詣が深いけん玉を取り入れることもあります。

実際にやってみると、友達と協力して技に取り組みむ中で自然とコミュニケーションが生まれて、関係性が築かれていくんです。

あと、その子どもの特徴や背景にある環境なども、けん玉から見えてくることがあります。例えば、けん玉を上げようとしても力をうまく抜けなかったり、膝を使わなかったり。そういう何気ない遊びの中にも、子どもの身体の使い方や発達の背景にあるものが見えてくる、というのとはとても興味深いところですね。

新生児に向けて

新生児のみなさんは、これから大学という場所で、自分で道をデザインしていくスタートラインに立つことになりま。期待と同時に、「自分はどんな道に進めばいいのか」と不安を感じている人もいるかもしれません。

でも、最初から正解のルートが見えていなくても大丈夫です。たとえば、私の専攻している心理学は、自分の現在地や人や社会との関わりを考える手がかりを与えてくれる、いわば「地図」のようなものです。

しかし、大学生活は、あらかじめ書かれた地図をそのままただるだけではないとも思います。好奇心のままに一歩踏み出す中で、思いがけない出会いや出来事に巡り合うこともあります。私自身、けん玉との出会いをきっかけに人とのつながりが広がり、地域に関わる活動にもつながっていききました。

そうした偶然も大切にしながら、自分らしい大学生活を描いていってください。

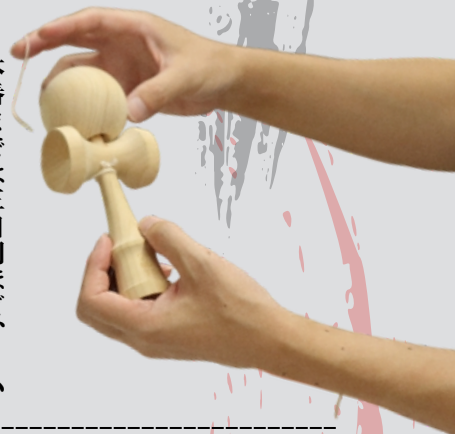


KENDAMA

福住先生は過去二回、紅白歌合戦のけん玉ギネスチャレンジに参加されていますよね。

そうですね。歌の最中に、リレー形式で技をつないでいくあの企画です。出演の際には、三山さんから紅白のロゴが入ったけん玉をいただけましたよ。

ただ、一回目は、記録としては残念ながら達成とはならず、あの舞台ならではの、独特の緊張感を感じましたね。



本番までは三日間ほど、リハサルを含めた練習があるんです。スタッフの方や大学生のアルバイトの方々に案内していただくのですが、そのきらきらした雰囲気にも少し圧倒されていました(笑)。

普段使っているけん玉も、紅白でいただいたものの他に、高知大学のロゴ入りのものや、くろしおくんの顔のデザインのものなど、いろいろ揃えています。また、STEAM教育での活用も視野に入れてレーザー加工機を導入し、授業や実践への応用も模索しています。

最近も、日本画を専門とする学生さんにキャラクターをデザインしてもらってけん玉にレーザー加工したんですよ。ペンギンのキャラクターなのですが、未知の世界に一步踏み出すイメージを込めています。私のお気に入り的一本です。

福住先生は現在、けん玉チームに所属されていると聞きしました。

「103DAMA」のメンバーとして、学校でけん玉クラブの指導や各地での講師活動を行うほか、けん玉ワールドカップなどの大会にも出場しています。高知に来た当初は知り合いもほとんどいなかったのですが、県外から来た自分をチームのメンバーが温かく迎え入れてくれたことが自分にとって大きくて、思い入れが強いですね。チームのリーダーは二〇二二年のワールドカップで年代別で一位になっていたり、バイリンガルMCとして国際大会で司会を務めていたり、けん玉界でも活躍している方なんですよ。



他のメンバーには小学校の先生など、教育にかかわる方が多いです。保護者の方のお話を率直にうかがえることも、子どもや教育を考える上での学びになっています。そうした中で、メンバーの先生方が大切に行っている学級づくりや子どもへの視点が、けん玉を教える場面にもそのまま表れていることに気がきました。実際に小学校などで活動する中でも、「こういう見方や関わり方は、けん玉でも同じように活かせるんだな」と感じることも多くて、自分が教える立場になってみて、けん玉も教育の現場で活かしていけるのではないかと思っています。



KENDAMA

ANSWER YOUR QUESTION

Q **何に一番お金を使ってる？**

ライブの遠征費です。高知県で開催されるライブは非常に少ないので、高松、大阪、東京などに遠征することが多いです。高松、大阪までは学割を使って高速バス、東京まではJALスカイメイトを使って飛行機で行くのがおすすめです。

趣味に没頭できるのも大学生まで！

ムリの無い範囲で、行きたいライブは全部行きましょう！



自転車はクロスバイクか、ママチャリか

私の地元はクロスバイクの文化があまりないのでよくわからないのですが、圧倒的にママチャリの方がいいと思います！！そうしないと、エコバックに入らきらないトイレットペーパーは行き場を失ってしまいます…(笑)。

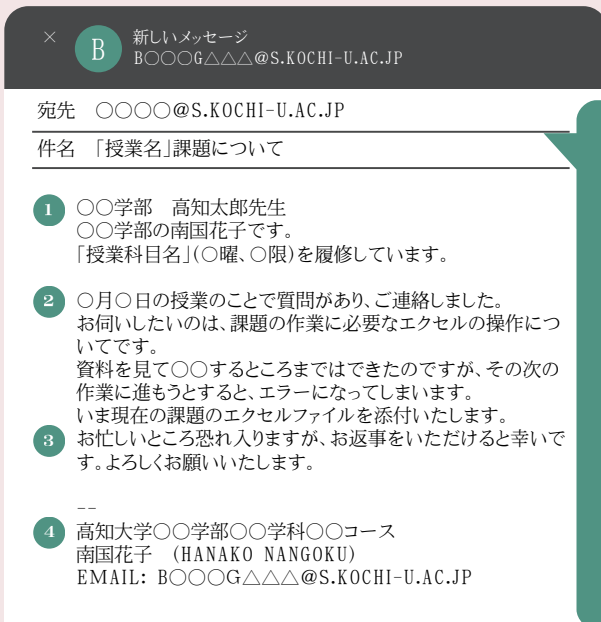


大学生のマル秘テクニック？

高知大学生は県外出身者が7.5割！帰省代もかさみますよね…。そこで、「**学校学生生徒旅客運賃割引証**」を使ってはいかがですか？学割証を使うと、JRの片道100kmを超える区間であれば、帰省の際、なんと**運賃が2割引に**！！(就職試験や、課外教育活動などでも使用可)学割証の交付は、学務課の「**証明書自動発行機**」を利用してくださいね。



先生へのメールの書き方



- 1. 「誰宛」「誰から」を分かりやすく**
授業担当者の氏名、所属が分からない場合はKULASからシラバスをチェック！！
- 2. 目的を明確にする**
先生もお忙しいので、パッと読んで分かりやすく！
- 3. 返信の必要性を記載**
失礼にならないように気をつけて、返信をお願いします！
- 4. 署名**
メールの送受信に必要な情報のみ記載しよう。
毎回入力しなくてもメールの設定から自動で付けてくれるぞ★



バイトは朝倉かまちか？

私は朝倉と帯屋町の2つを掛け持ちしているんですが、**まち**の方が働きやすい気がします。時給が高いのもそうですが、近場すぎるとどうにも行く気がしないんですね（笑）。ちょっと離れた方が「よし行こう」と思えるというか。

ホテルとか、喫茶店とか、**業種もたくさんある**のでおススメですよ。とりあえず、まちのバイトを選ぶなら、**交通費支給**のところは要チェックです！！

肌荒れ防止も！



最近**春雨**にハマってます！：もちもちで満足感がしっかりあるのに、お湯かけるだけで食べられるから、**実質カップ麺**。なのに、カロリーが低いという無敵属性です。きゅうりとハムを醤油とお酢であえて、春雨サラダにする、急にちゃんとした**生活してる人**っぽくなるのもいいところ。最近流行りの麻辣湯もしかり、今きてるのは**春雨ブーム**では？

ひとり暮らしの優勝メシは？



学生生活の必需品

学生証は必須です！これには電子マネー機能がついており、学食や生協ショップで支払うときに便利です。また、情報図書館への入退館や図書貸出・返却の際にも必要になります！

他には、**ノートパソコン**が何かと活躍しますね。重たいですが（汗）。次のページの「In My Bag/ 高知大生のカバンをチェック」もぜひ参考にしてみてくださいね♪

パソコンが入るかメインでカバンを考えてもいいかもね。



車の免許はいつがいいの？

2年生最後の春休みに行き始めたんですが、とにかく人が多くて、私は2ヶ月かかりました。もっと早く始めておけばよかったと後悔です…。だから、**1年生の夏休み**がおすすめですね。



レポートの提出締め切りと、テストの日程を確認して、計画を立てましょう。全体で見ると多いですが、一日あたりで見ると案外少ないです。「そんな計画的に出来ない」という人は、期限ギリギリに頑張らしましょう。人間の力は**無限大**です。

テスト期間の攻略方法



高知大生の

IN MY BAG

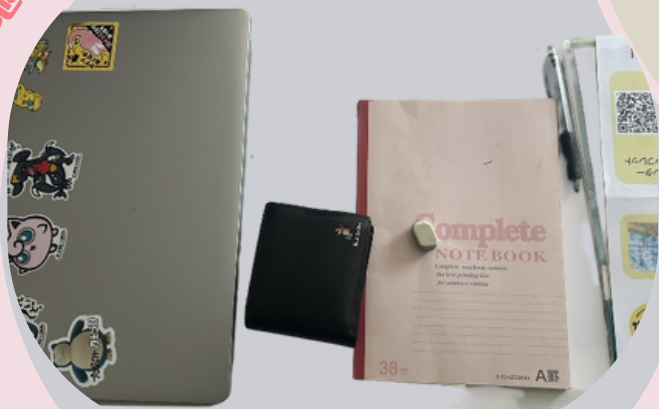
カバンをチェック

人文社会科学部4年



持ち物の細部に趣味がにじみ出ていますが、1番のお気に入りは国立西洋美術館「素描展」限定の素猫クリアファイルです。(左上) 一目惚れだったので、素描展の中身は一切見ていません。この直感的な生き方こそ、理想のネコへの第一歩だニャン。

地域協働学部4年



パソコン、スマホ、ノート、財布、筆記用具。これさえあれば大学生活は乗り切れる！ミニマリストから始めて、その後必要なものを追加していこう！

人文社会科学部3年



無印良品グッズ多めです。特に、「水」と書かれたクリアボトルは、たくさんの人に声をかけられます。折り畳み傘は雨用と晴れ用をそれぞれ持っていますが、日傘の出番はあまりないです(笑)

B

人文社会科学部3年



小物がバラバラにならないように巾着を使っています！リップやくし、モバイルバッテリー、イヤホンなどをまとめて入れています。小物をまとめるとすっきりしますね～



e

t

u

る

人文社会科学部3年



ひとつひとつに愛着があるんですが、中でも2025年のベストバイはやっぱり財布ですね～。ずっとガチャガチャのポーチに入れてたんですが、ようやくちゃんとした財布をそろえました！高かったけど大人になるまで愛用する予定です♡

人文社会科学部3年



スケジュール帳は常に持ち歩くようにしています！スケジュール管理のみならずちょっとしたメモ帳としても使っています！



濃いめでお願ひします

～高知大生って超おもしろいがよ～

volume.2 地域協働学部 田村優太さん



音の輪 -otonowa-

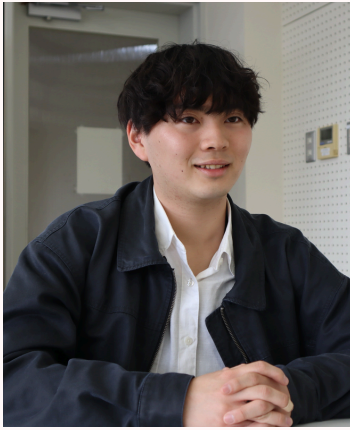
昨年の四月に、レコードの鑑賞会を開催する「音楽発掘団体 音の輪」というものを立ち上げまして、その代表をさせて頂いて頂いています。

ただ、もともと自分が一から始めたわけではなくて。高知大学に合格してすぐの頃、知り合いのレコード店に行った際に、お店に鑑賞会のイベントのチラシが貼ってあったんです。それが、大学の先生が授業の一環として行っていたものでした。

なんとなく遊びに行って、何度か顔を出しているうちに「次は手伝ってよ」と声をかけられて。同じような流れで関わるようになった人が3人ほど集まり、「じゃあ団体にする？」という話になりました。

もともと先生が行っていた活動を、学生主体でもやる、というイメージで、分家のような形です。名義は違いますが、音の輪としての活動に、もともと鑑賞会を開催している先生に協力いただいています。

ただ、団体として形にしておく動きやすいですし、実績にもなるから作っておいた方がいい、ということに立ち上げた、というのが経緯ですね。



みんなで音楽を共有する

イベントはだいたい三ヶ月に一回くらいのペースで開催しています。時期によっては少し詰めて実施することもあるけど、昨年の夏から秋にかけては比較的頻繁に行っていました。

開催場所がはりまや橋商店街なので、来てくださるのは、商店街周辺にお住いのご年配の方とか、中年層とかが多いですね。

だから、曲も自然と昔の楽曲が多くなって、一九七〇～八〇年代の楽曲をよく流します。例えば、美空ひばりさんや松田聖子さん、サザンオールスターズ、松任谷由実さんといった辺り。シテイポップの回では、山下達郎さんや松原みきさん、竹内まりやさんの楽曲も流しました。

でも別に「昭和歌謡が好きでやってます」というよりは、**単純に音楽全般が好きでやっている、という感覚に近い**です。若いから珍しがられるとかでもなくて、ただ**純粹にみんなで音楽を楽しんでいる**感じですね。

とはいえ、「みんなで一緒に楽しめるかどうか」という点は意識しているかもしれません。例えば、ダンスコーナーを入れるときには、「Y.M.C.A.」とか、**誰でもわかる曲を入れるように**しています。

盛り上げるためというよりは、「**これが流れたら自然と体が動くよね**」というような、共有できる楽しさを大事にしています。

田村優太の「音楽」とは

特に印象に残っているのは、昨年の十一月に帯屋町公園で開催したときのことです。

そのとき、お客さんのおじいさんが**ロックンロールを本当にバリバリに踊ってくださって**(笑)。あれは純粹に嬉しかったですね。

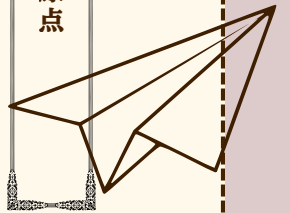
当時の空気感というか、その人の若い頃の感覚がそのまま出ているように感じて。

ああいう光景を見ると、「**やっぴいてよかったな**」と思います。そういう瞬間があるから、続けているんだと思います。

あえて言葉にするなら、自分にとって音楽は、「**最大の遊び道具であり、人とのコミュニケーション手段**」なんだと思います。



自分の原点



もともと高校のときからずっとボランティア活動をやっていて、地域で何か面白いことができたらいいなと思って、この学部に進学しました。なので、今やっていることも、わりとその延長ですね。

音楽と地域、という軸で見れば、自分の中では一本筋が通っている気がします。自分の好きなことを使って、地元で楽しいことをやりたい、というか。**好きなことしかできないタイプ**なので(笑)。

なんでそこまで地域に関心があるのか、と言われると難しいんですけど……
でも、小さい頃から夏祭りなどが好きで。屋台があって、ステージがあって、人が集まっているあの感じ。ああいう空間がずっと好きなんですよね。小学生の頃から、イベントの手伝いもよくしていました。

だから、いわゆる「地域振興」とか、そういう大きな話というよりは、**単純に地域で楽しいことをやりたい**、という感覚に近いです。それで結果的に、少しでも場が盛り上がったらいいな、くらいの気持ちでやっていきます。

DJの魅力にどっぷり

そうした活動の延長でというか、個人としての音楽活動も行っています。

レコードは本名の「田村優太」で回していますが、音楽活動は「tanutamun」という名前でやっています。

DJっていうとクラブのイメージを持たれることが多いと思うんですけど、そういう場所に限らず、地域のイベントとか、クリスマスパーティーみたいなところでもやっていますね。

始めてDJとしてプレイしたのは、高校三年生の秋でした。地元が高知の東部で、安芸市の高校に通ってたんですが、安芸市の地元事業者が主催するイベントに出演させてもらったのがきっかけです。

知り合いのカレー屋さんがイベントの出演者を募っていたところに声をかけてもらって(笑)。

本当に巡り合わせだったんですが、大きな手応えがあり、DJに本格的に取り組みきつかけとなりました。



ただ、DJ自体はそれ以前からずっとやりたいと思っていて。高校二年生のときには機材を買って、家で練習していました。「どこかでやりたいな」と思っていたところに、ちょうどイベントの話が来た、という感じですね。

そこからは、イベントで知り合った人に呼んでいただいたりして、今に繋がっています。

一番面白い瞬間

そうやって続けてきて思うのは、やっぱり「**場とのハマり方**」が一番おもしろいっていうことですね。レコードの鑑賞会とも少し被る部分はあるんですが、DJをやっている一番楽しいのは、**お客さんがしっかり乗ってくれた瞬間**です。

この前も、ボサノヴァを流していたときに、外国の方のグループがすごく楽しそうに踊ってくれて。二〇〇〇年代に流行っていた、ダンスミュージックの要素を取り入れたボサノヴァを流したんですね。

自分がいいと思って選んだ曲で、場の空気が動くっていう感覚はやっぱり嬉しいですね。

人生プレイリスト

これまでの話を聞いてみると、音楽の趣味がかなり幅広いと思われるかもしれませんが、両親とも音楽好きで、小さい頃からいろいろな音楽が流れてたんですよね。そこから自分でも興味を持って、掘り下げるようになりました。

当時はまだサブスクもなかったので、ネット調べて、TSUTAYAのレンタル落ちやブックオフでCDを買って、ひたすら聴く、という感じでした。

小中学生の頃はずっとそんな生活でしたね。

聴いてきた音楽もけっこうバラバラで、保育園の頃はEXILE、小学二年生でくるり、小学四年生でSuchmos、

中学二年生で日本のインディーポップとどんどん広がついきました。気づいたら、かなりマニアックなところまで行っていた(笑)。中学三年生の頃には、CDを二百枚くらい持っていました。

でもずっと一貫しているのは、「**踊れる音楽が好き**」っていうところかもしれないです。中でも、くるりとかクレイジーケンバンドの影響は大きいですね。

どちらもアルバムごとに全然違うことやらないですか。ジャンルもバラバラで。そういう音楽を聴いていたから、自分でもジャンルにこだわらなくなっただと思えます。

だからこそというか、みんなで楽しめる音楽っていうのにこだわりがあって、そういう場をつくってあげたいなと思っています。

おすすめの授業

WHAT IS YOUR RECOMMENDED CLASS?



新入生のみなさん、履修に困っていませんか？特に人文社会科学部のみなさんは必ず**初修外国語**を単位として取らなければならないのですが、どの言語を取るか迷っていませんか？高知大学では英語以外に韓国語、中国語、スペイン語、ドイツ語、フランス語の授業が開講されていますが、もし迷われていたら**中国語**を取るのはいかがでしょうか。私自身も中国語を取っていました。私が中国語を取っていた理由は、**世界で最も話者が多い言語のうち、英語の次に多い言語が中国語であったから、という単純な理由**でした。また、日本語と中国語は同じ**漢字**が使われているという点で**共通**しているため、日本人話者である私にとって**学びやすい言語**であると思ったからです。私の取った授業の先生は、教科書にそって授業を進めるスタイルであり、**日常生活に触れた内容**であったため、**実用的**であり、**楽しく学ぶ**ことができました。学期末では、学びの集大成として、**中国語で作文**を書いたり、**中国語でプレゼン**を作り自分で**アフレコ**したりしました。この活動があったことで、自分が中国語を習得できていると感じ、**嬉しく**なりました。中国語に限らず、**新しい言語を学ぶ**ことは、自分の新たな一面が見える**良い機会**なので、**大学生で学ぶ**せっきくの**初修外国語**を**楽しく**学んでみてはいかがでしょうか。



中国語IIの授業終了後、パーティーが開催されました。先生が作った台湾の油飯や牛肉麵、イタリア留學生の手作りティラミスとカクテルなどが振る舞われました。



押し事エッセイ

COCO
徳島県出身 3年
人文社会科学部

みなさん、**アイドル**はご存知ですか。AKB48、乃木坂46などが有名ですが、テレビ番組などで一度は目にしたことがあるのではないかと思います。日本には数え切れないほどのアイドルが存在していますが、なかでも、**KAWAII LAB.**（通称「**カワラボ**」）というアイドルプロジェクトについて紹介させてください（^^）

ところで、最近**TikTok**で流行っていた曲を思い出してみてください♪「**かわいいだけじゃだめですか？（CUTIE STREET）**」や「**倍倍FIGHT！（CANDY TUNE）**」など…。これらの曲はすべてカワラボに所属するメンバーによって歌われています。このように、カワラボは時代の**最先端**を走るグループということがわかります！

では、なぜ私がカワラボにハマっているのかというと、カワラボメンバーがただかわいいだけではなく、**自己肯定感**を高めてくれる楽曲が多く、背中を押されるからです。また、**女性目線**で描かれた楽曲も多いです。女性アイドルのファンは男性が多いイメージがありますが、実際のところカワラボのファンは男女比が同じくらいであり、カワラボがいかに女性にも人気であることを物語っています。

特に、**リボン**や**フリル**たっぷりの衣装が、個人的に大好きです。**メンバーカラー**もはっきりしており、覚えやすく、友達ともよく話題にあがっています。ぜひ友達などと一緒にカワラボについて話してみてもは、、、、？

著者は
FRUITS ZIPPER
（通称「**みるっぱー**」）
推しです

こいこい、春らんまん。

つぼみが芽ぐむ、高知大学。

CROSS POINT

volume.04

2026

学生広報スタッフ
オリジナル広報誌
バックナンバーは
こちらから↓

編集・作成：高知大学
学生広報スタッフ
発行：高知大学広報・校友課

